

令和元年度 小平市立 鈴木小学校 学校評価報告書

学校教育目標 よく考え やさしく 元気な 鈴木の子

○よく考える子・・・基礎・基本の習得とそれを活用する力を身に付け、自分の考えをもち、判断し、行動できる子ども ○やさしい子・・・自他の生命を尊重し、共に生きる豊かな心をもつ子ども ○元気な子・・・心身ともに健康で、粘り強くやりぬく子ども

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 ○人権尊重の精神を基盤とし、集団や社会との関わりを通して、すべての人が成長できる学校ー子ども同士、子どもと教師、教師同士、学校・保護者・地域の好ましい人間関係の構築ー

【目指す児童・生徒像】 ○子ども同士が認め合い、共に喜び、何にでも挑戦する意欲がある児童

【目指す教師像】 ○自己の使命と責任を自覚して学校を開き、教師同士が学び合い、協力し合って職務に励み、子どもと共に成長する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

○小規模校ならではの児童へのきめ細かい指導や特別支援教育の視点を生かした教育環境の整備により、学力・体力ともに少しずつ向上した。また、少ない教員数で保護者へ協力をお願いしながら教育活動を展開できた。今年度も業務改善を行って働き方を見直し、教職員の心身の健康も保持しながら、主幹教諭を中心として組織的に教職員の資質を向上を図る。その上で、児童の自己肯定感を高め、意欲的に行動できる児童の育成を目指す。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的に鈴木タイムとベーシックタイムを実施し、確実な知識の定着を行う。 ●鈴木小学習ルールを確実に実行し、定着させる。 ●10分×学年の家庭学習を保護者にも働きかけ、定着させる。 	3	3	課題 鈴木タイムやベーシックタイムは予定通り実施している。家庭学習の定着には各家庭差がある。 対策 学年に応じた方法を例示したり、良い取組事例を紹介したりして啓発を続ける。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の定着が見られ、どの学年も落ち着いて学習している。 ・自分の考えを述べるという力は、子どもに最後まで話をさせよう、それを聞くという家庭の心構え、ゆとりが必要である。 ・各学級の作品が丁寧でよい。担任の指導が入っていることが掲示物に見て取れる。 	課題 家庭学習の定着は上がった。主体性と習慣づけの向上につながる。内容の充実が必要である。基礎・基本の力をすべての児童に確実に身に付けさせることが必要である。鈴木タイムやベーシックタイムの改善を行い、個別対応をする。 対策 教科の単元途中の見取りを確実に実行し、習熟につなげる。意見表出への意欲は上がった。自信につなげていく。言語環境との連携を図る。探究学習の手段としての図書館利用率を上げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えを発表し、学び合いの場を日常的に取り入れた授業を行う。 ●読書活動の充実して語彙力を高め、正しい言葉遣いで話し合う力を高める。 	3	3	課題 児童と教職員の評価数値に差がある。 対策 個々心しほから考えを表現する場を増やして取り入れる。児童活動の充実と共に、読書の取組を確実に進める。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級の作品が丁寧でよい。担任の指導が入っていることが掲示物に見て取れる。 ・インターネットの発達が著しいが、学習の中に図書というアナログの世界を大いに利用してほしい。 	課題 意見表出への意欲は上がった。自信につなげていく。言語環境との連携を図る。探究学習の手段としての図書館利用率を上げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な考えを発表できる場を生かした、学び合いや深め合う授業を実践する。 ●外部の研究会や公開授業に積極的に参加し、校内に還元する。 	3	3	課題 校内研究の外国語活動や各教科、領域で実践を行っているが、各学年・学級で実施状況に差がある。 対策 OJTや校内研究の充実を図る。学びを深める実践事例を各教員が主体的に学んでいく。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの発達が著しいが、学習の中に図書というアナログの世界を大いに利用してほしい。 	課題 校内研究やOJT、学年間研鑽でよい実践を積んだ。児童の自己肯定感につながる系統的な価値づけを整理する必要がある。 対策 研究の成果と課題を全員が共有し、各自の今後の実践につなげる。発信力や調整力を伴った表現力の育成のために研鑽を続けていく。
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ●自分から先にあいさつすることや場に応じたあいさつをすることの学習を行う。 ●いいねさんカードの取組を推進し、人権感覚を高める学習を実践する。 	3	3	課題 形式化させずに、学校全体の意識向上が必要である。 対策 あいさつ運動の継続。互いを認め合う経験の蓄積。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・来校時や地域で会う子どもたちの方からあいさつされることが増えて嬉しく思う。 	課題 全学年が互いを尊重し、人権感覚を高めていくことが重要である。 対策 児童主体の活動を計画する。方法論や形式に偏らないような取組を生活指導部が中心となって検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ●学期1回の規則の尊重の道徳の授業や生活指導等による規範意識を高める学習を実施する。 ●いじめに関する授業を年間3回全学級で実施する。 	4	3	課題 規範意識や規則尊重の価値観の醸成を見取る方法や、価値付けの手立てについて教員間で意識の差がある。 対策 生活指導に関する児童の振り返りを有効に活用する。道徳指導や生活指導の手立てを学びあう機会を設けて、異学年交流を通して高学年の成長を図ることができている。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいねさんカード」の取組は、言うことが苦手な子どもでも伝えられる場となり、心を育むのに役立つ。 ・解決できないことは、大人に相談していいのだと伝え、安心させた。 ・異学年交流の活動は大事なので今後も充実させてほしい。地域でもつながりを支えていきたい。 	課題 規範意識の向上といじめ防止につながる授業実践を行った。道徳指導や健全育成に関する各教員のスキルアップを目指す。 対策 児童の成長につながる校内体制を充実させ、家庭との連携も図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ●たてわり班活動や係活動等を通して主体的に考えて実践する力を育成する。 	3	4	課題 道徳指導や生活指導の手立てを学びあう機会を設けて、異学年交流を通して高学年の成長を図ることができている。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・解決できないことは、大人に相談していいのだと伝え、安心させた。 ・異学年交流の活動は大事なので今後も充実させてほしい。地域でもつながりを支えていきたい。 	課題 たてわり班活動と学級（係）活動は経験を重ねることで児童の自信や自主性につながった。主体性をより育てていきたい。 対策 来年度の校内研究と連動させ、協働・他者理解・自己有用感を伸ばす活動を計画・指導していく。
体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ●休み時間に外遊びを奨励し、日常的に体を動かす。 ●なわとび旬間、マラソン旬間、大なわダーの継続的に取り組む。 ●体育科の授業の充実と体育集会の実施により、多様な運動を通して運動するよさを実感させる。 	3	3	課題 学年によって外遊びをする人数に差がある。 対策 児童会活動を生かしながら、外遊びの奨励や楽しく運動する機会を多く設ける。	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に多くの先生方が子どもたちと体を動かしてあげてほしい。 ・体力面での課題を、楽しく改善していく各旬間の取組は継続を望む。 	課題 集会や各旬間の充実が図れた。児童会活動を生かす方向を継続させたい。中・低学年からの体力・技能の伸びを図ってほしい。 対策 特別活動とも連携した体育的取組を充実させていく。体育の指導における校内研鑽を継続させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史や意義を学習し、運動に親しむ態度を育成する。 ●パラリンピック競技等に触れ、スポーツのよさを味わう授業を全学年が実施する。 	2	3	課題 年度後半に実践の場の設定がされていて、評価材料が少なかった。実施状況に学年差がある。 対策 教科・領域活動を通してオリ・パラ教育(歴史・意義・スポーツの良さ)を体験的に学ぶ計画を充実させる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの体験や交流は、人権や福祉教育の学びにつながるので、充実させてほしい。 	課題 学習や体験活動は計画通り実施できた。学年の系統を図りたい。 対策 計画を十分に検討し、各学年での実施状況を共有する。世界との交流やスポーツの素晴らしさを各自が体感できる活動につなげる。
郷土愛の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年・専科等の学習の様子を毎月ホームページで紹介する。 ●地域人材や関係機関と連携した学習を全学年において実施する。 	3	3	課題 ホームページのアクセス数に学年・専科間で差がある。 対策 学校支援コーディネーターとの連携を密にして、地域の教育力活用を図る。地域との懇談会を立ち上げる。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の施設との連携を今後も続けたい。 ・HPの児童の様子や校長の全校朝会の講話が楽しみである。 	課題 地域人材の活用授業を予定通り実施できた。体系的にとらえてさらに広げたい。HPも一層の充実を図る。学校の窓口を設けて連携を密にし、人材データの蓄積と計画的な活用を進める。定期的な配信システムを工夫する。
(働き方)業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ●会議の効率化、行事の精選をすすめる。 	3	2	課題 具体的な提案や行事の在り方に関するものが多く、検討中であるため、具体的な評価が出しづらい項目が多い。 対策 順次教務を中心に会議・分掌を効率化する提案を行う。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選等に関する理解と協力を得るためにも、事前の趣旨説明を丁寧に行なってほしい。 	課題 学校評価を生かして改善できることから着手してきた。大きな行事の在り方については方針を検討中のものもある。 対策 中期・短期に分けて順次対応し、各方面からの意見も聞きながら、手順を踏んで丁寧・周知・説明を行う。